

天理時報

TENRI
JIHO

発行所
天理教道友社

〒632-8686 奈良県天理市三島町1番地1
電話 (0743) 63-3726
郵便振替口座00900-7-10367番

〔本紙定価〕：1部60円 1年(送料共)：4,560円
半年(送料共)：2,280円



今号電子版は
ココから!

- 両統領再任 3月月次祭2・3面
- 特別企画「信心への扉——おやさまに導かれた女性」...4・5面
- 講演ダイジェスト「教学と現代」オンライン6面
- 話題を追って「奥さんは「世界王者」」7面
- 天理スポーツ「天理高校野球部」 連載小説「ふたり」8面

立教184年
令和3年/2021年

4月4日



今年の親里のサクラが
動画で見られます

桜を仰ぎ想う

いまや春の親里は「桜の名所」。なかでも3本のしだれ桜は、その大きさといい姿形といい、見事のひと言に尽きる。真に良きものは心を誘う。人も然り。桜を仰ぎながら、「なるほどの人」という言葉を想う。
(この写真をプレゼントします。詳細は5面広告欄で)

逸話の季

ITSUWANOTOKI

希望の力で旅立つ

4月です。新しい年度の始まりです。昨日までの自分に別れを告げ、新しい自分の可能性を見つつける季です。今年も日本中でたくさんの子供が新1年生になり、数多くの学生が新社会人として羽ばたいていきました。長年勤めていた会社を定年退職し、新たな一歩を踏み出す人もいます。『天理時報』も、この4月からタブロイド判になります。

4月の出来事を記した教祖の逸話の一つに「四十二人を救けたら」があります。明治8年4月に、福井県山本村菅浜の榎本栄治郎という人が、教祖からお言葉をいただくエピソードです。

娘の病の平癒を祈って西国巡礼をしていた栄治郎は、茶店の老婆から「庄屋敷村には生神様がござる」と聞いてお屋敷を訪れ、教祖から、「早ようおかえり。かえつたら、村の中、戸毎に入り込んで、四十二人の人を救けるのやで。なむてんりわうのみこと、と唱えて、手を合わせて神さんをしっかりと拝んで廻るのやで。人を救けたら我が身が救かるのや」というお言葉をいただいて村中の家を回り、42人の平癒を誓い続けます。すると不思議にも、娘はすっかり全快のご守護をいただきました。

42人の平癒を祈る……。決して不可能な人数ではありませんが、はたして自分に実行できるでしょうか。私はかつて、この地を訪れたことがあり、そのとき、実際に地域を歩いて「村の中、戸毎に入り込」むという逸話の一節について考えました。42人の家を訪問するだけでも途中で心が折れそうです。それに、一人に声をかけることさえ容易でないことは、身に染みて分かっています。この人の行動の原動力は、いったい何だったのでしょうか。

教祖からお言葉をいただいた栄治郎は、まだ娘の病は平癒していないのに、「心もはればれとして」出立したそうです。このとき彼の心を満たしていたのは、「人を救けたら我が身が救かる」という希望だったのではないのでしょうか。私はこの出立の描写が、とても好きです。新しい旅立ちを可能にするのは、やはり「希望の力」なのだと思います。

■ 文 岡田正彦

天理大学宗教学科教授

両統領再任

3月26日、本部分次祭典後のお運びで、内統領に宮森与一郎本部員（64歳）が、表統領に中田善亮本部員（59歳）がそれぞれお許しを頂き、両統領が再任された。宮森内統領は2期目、中田表統領は3期目。また、27日には教会本部および教庁の責任役員・常詔の任命、室長・主任・部長の指名が発令されたほか、新たに掛主任・課長の人事も発表された。



内統領
宮森与一郎本部員

【宮森内統領略歴】

昭和31年7月31日生まれ。平成元年青年会本部副委員長。6年本部直屬明拝分教会長。8年別席取次人。18年本部員、常詔、海外部長。21年宗教法人天理教責任役員。28年宗教法人天理教教会本部責任役員、内統領室長。30年内統領、宗教法人天理教教会本部代表役員。



表統領
中田善亮本部員

【中田表統領略歴】

昭和37年3月5日生まれ。平成7年青年会本部委員長。12年別席取次人。13年本部直屬鮮京分教会長。18年本部員。21年宗教法人天理教責任役員、常詔、教化育成部長。22年おやさと委員会委員長。24年布教部長。27年表統領、宗教法人天理教代表役員。

新 人 事 発 令

宗教法人天理教教会本部
責任役員

松田理治
常詔

宮森与一郎（代表役員）、増井幾博、増野正俊、西浦忠一、井筒梅夫、永尾洋夫、木村成人

宗教法人天理教
責任役員

中田善亮（代表役員）、前川治夫、仲野芳行、今村英一、田中善吉、松村義司、鹿尾辰文、松村登美和、山本道朗、板倉知幸

本部人事

真柱室長 中山 治信 61歳
教義及史料集成部主任

表統領室長 仲野 芳行 61歳
総務部長 鹿尾 辰文 56歳
教務部長 山本 忠治 54歳
布教部長 松村 登美和 56歳
海外部長 松田 理治 51歳
道友社長 松村 義司 57歳

教庁人事

内統領室長・おやさとやかた管理室長（兼） 山澤 廣昭 71歳
西浦 忠一 60歳
祭事室長 木村 成人 65歳
御用方室長 増井 幾博 70歳
教養室長 永尾 洋夫 59歳
會計室長 増野 正俊 63歳
保安室長 井筒 梅夫 61歳

本部人事

信者部長 山本 道朗 57歳
輸送部長 板倉 知幸 55歳
経理部長 田中 善吉 58歳
管財部長 前川 治夫 61歳
営繕部長 今村 英一 60歳
※経歴の詳細は「みちのとも」に

教庁人事

表統領室調査情報課長 浅田悟朗
総務部総務課長 橋本広満
総務部渉外広報課長 安野素彦
教務部教務課長 吉川万寿信
教務部宗教法人課長 清水国朝
布教部次長・同布教一課長（兼） 土佐剛直
布教部庶務課長 橋本武長
布教部布教二課長 富松基成
布教部社会福祉課長 村田幸喜
布教部基礎育成課長（兼） 松村登美和
布教部長 中田 晃
海外部次長 橋本毅
海外部北米・オセアニア課長 加見英樹
海外部ヨーロッパ・アフリカ課長 清瀬理弘
海外部翻訳課長 中山正直
道友社次長・同編集出版課長（兼） 諸井道隆
おやさとやかた管理室管理掛主任 飯降 信
教養室次長 高井久太郎
教養室講習会掛主任 飯降好助
保安室境内掛主任 鈴木 洋
保安室消防掛主任 橋本弘和
営繕部電気課長 紺谷清春
※右記以外の次長・掛主任は留任
立教184年3月27日

教会本部 教祖誕生祭の参拝について

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、教会本部の教祖誕生祭には、ようぼく・信者の皆様の参拝をお控えいただき、各教会・布教所、自宅などから遥拝をお願いたします。

立教184年3月31日

天理教教会本部

おやのころ

おやは周辺のソメイヨシノは、いまが見ごろ。うらかな春の日差しに満開の淡いピンクの花びらが映え、心を和ませてくれます。こうしたなか4月を迎え、新年度がスタートしました。高校や大学を卒業した人は、新社会人として新たなステージへ踏み出します。また、会社で働く人、あるいは教会本部や大教会などで御用に携わる人にとっても、人事異動や新たな環境に身を置いての再スタートを切る時期でもあります。

異動の辞令が下った当事者の中にはまさに青天の霹靂とばかりに、「なぜ、どうして？」と喜べない人もいます。一方、異動はなかったものの、新しい上司や先輩が配属され、これまでと異なる物事の進め方に戸惑い、ストレスを感じたり、不満を口にしたりする人もいます。



「人がめどか、神がめどか。神さんめどやで」

私たちは、つい周りの人の言葉づかいや態度に振り回されたり、良く見られたいと人目を気にしたりする傾向にあります。道の信仰者として生きていくうえで指針とすべきは、親神様の教えです。親神様の望まれる陽気ぐらしのためには、どうすべきなのかを常に思索し、たんのうの心を治めて、周りの人に少しでも喜んでいただけるよう努めたいものです。

今宵は妻と共に、夜桜を見に出かけようと思います。

（あ）

おやのことば

人がめどか、神がめどか。神さんめどやで。

「稿本天理教祖伝逸話篇」123「人がめどか」

春の陽気満ちるなか

3 月 月 次 祭

教会本部の 3 月 月 次 祭 は 26 日、中山大亮様祭主のもと、本部神殿で執り行われた。

大亮様は祭文の中で、たすけ一条の道をつけて、陽気ぐらしへと連れ通りくださる親神様のご慈愛に御礼申し上げたうえで、「私も一同は、世界一れつの陽気ぐらしを目指すようぼくの使命を胸に、日々心のほこりを払い、心澄みきる努力を重ね、一人でも多くの人々に教えを伝え広めさせていたたく所存でございます」と奏上された。

この後、かぐら・てをどりが陽気に勤められた。



3 月 月 次 祭 は、直 属 教 会 長 や 教 区 長 の ほ か、各 地 の 教 会 の 代 表 者 が 昇 殿 し て 厳 格 に 勤 め ら れ た (3 月 26 日)

新任
3 月 26 日のお運びで、中根大教会(栃木県小山市)の 7 代会長に日高彰氏(73 歳)、本愛大教会(名古屋市の 6 代会長に安藤吉人氏(37 歳)が、それぞれお許しを頂いた。

中根大教会長に
日高 彰氏



【日高氏略歴】
昭和 22 年 8 月 14 日 生 ま れ 。
59 年 青 年 会 中 根 分 会 委 員 長 。
平 成 元 年 亦 見 分 会 委 員 長 。 28 年
中 根 大 教 会 役 員 、 本 部 詰 員 。
就 任 奉 告 祭 は 5 月 16 日 。

本愛大教会長に
安藤 吉人氏



【安藤氏略歴】
昭和 58 年 12 月 25 日 生 ま れ 。
平 成 20 年 青 年 会 本 愛 分 会 委 員 長 。
21 年 本 部 青 年 。 28 年 青 年 会 本 部 委 員 長 。
就 任 奉 告 祭 は 6 月 20 日 。

視点 新しい時報をつなぎに

今号から『天理時報』の形も内容も生まれ変わった。

内容面では、ようぼく・信者が信仰心を養ったり、道の仲間の活躍を知ったりする読み物としての色合いが濃くなる。これまでと同様に、旬々の「おどばの声」を届けることに変わりはないが、行事や活動などの詳しい情報は、天

理教ホームページ上や『みちのとも』誌上で見られる。

教会でも、会長の考えや教会の動きを記した教会報を発行しているところは多い。普段は顔を合わせない信者さんにも送るなどして、心をつなぐ手だてとして行っている。書かれている文章には会長や執筆者の人間性や信仰の温もりが表

れていて、情報を知るといふより、人を知る「面」もあって、読むと楽しくなる。

一方、時報は教内全体の機関紙であるが、その中に親神様の思召や教祖の温もりを感じ、信仰を共にする教友の思いや人間性にふれることで、勇みや励みが得られれば、読み応えにもつながるだろう。

紙面の判型は従来の半分の大きさ(タブロイド判)になるが、その分、一つひとつの記事が際立ち、読みやすくなる。

ところで、タブロイドの語義には「小型。要約、圧縮した」の意味がある。その名を取った小型新聞の発生は 20 世紀初頭のイギリスにあり、まず大衆紙が導入した。近年になつて同国の「タイムズ」紙などの高級紙も積極的に採用している。

いつでも目に入り、手が届く生活の場に、教えの息吹にふれて信仰心を呼び覚ます読み物がある環境は大切だ。

新しい『天理時報』は、紙面が読みやすくなるとともに、スマートフォンなどインターネット上でも閲覧することができ、利用手段と範囲がより広がった。

この機会に、あらためて家族や知人への「つなぎ」として大いに活用していただき(村)

マスクを着けない人にイライラ

回答者 平澤 勇一

磐城平大教会長 福島教区長



Q 最近、マスクを着けずに外出している人を見かけると、「どうして着けないのか」と疑問を感じ、イライラします。感染症を予防するためなら、少しくらいの不便は我慢できると思えます。どうすれば、イライラせずに過ごせるでしょうか。(40代女性)

身上・事情などに関する悩みをお寄せください。個人情報は厳守いたします。
●〒632-8686 天理郵便局私書箱30号 天理時報「人生相談」係
●ファクス=0743-62-0290 ●Eメール=jihou@tenrikyo.or.jp

A 現在のコロナ禍に限らず、いつの世もエチケットやマナー、ルールを守らない人はいるものです。あなたのようにきちんとしている人から見れば、イライラが募るのも頷けます。しかしイライラしているだけでは、陽気ぐらしの生き方はできません。ストレスが溜まると、あなたの身に悪影響を及ぼします。イライラは「はらだち」につながります。世の中は「十人十色」。さ

まざまな人がいて当たり前だと、寛容な心を持るといいですね。人の行動を見てイライラしそうなとき、「あの人は注意を受けるかもしれない。かわいそうだ」と気持ちを入れ替えることでイライラを軽減できます。また、「アンガーマネジメント」という怒りを抑える心理トレーニングも参考になります。怒りの感情が湧き上がったときは、「深呼吸する」「6秒間数える」などが

有効です。何より信仰者としては、心を込めておつとめを日々勤めることが大切です。おつとめは命の切り替えをする「たすけの手だて」です。また、よろづたすけを願うのもおつとめです。生かされている喜びに感謝し、一日も早くコロナ禍が終息するように願いを込めておつとめを勤めてください。悪しき心も払われて、親神様・教祖が良い方向へ導いてくださいます。



河内から大和方面を望む。河内で布教していたころ、重病人が与わると、おちば帰りを心定めて歩いた。毎月おちばで買い求める「はま下駄」はひと月もたず、裸足で歩くりんの足の裏は石のように硬くなっていったという

何をしても神様の

神様の「おさしづ」に、「我が身を捨て、も構わん。身を捨て、もという精神持つて働くなら、神が働く」(明治32年11月3日)と、我が身を捨ててもかまわないという精神に乗って、神様はお働きくださると論されています。神様は定めた心にお働きくださったということ。それからは、家業を人にまかせて、たすけ一条の歩みが始まります。

特別企画

信心への扉

おやさまに 導かれた女性

世界一れつをたすけたい。この親なる神様のお心を、教祖は、私たち人間に分かるようにお示しくださいました。その教祖に導かれた先人は、真に「生きる」ということに目覚めて、この道を歩まれま

した。ここに、世界には困難な問題が山積みされていますが、人間社会における利権などが複雑にからみ、問題の解決にいたる処方箋は簡単にはみつかりません。

けれども教祖は、まずは「一人一人、すなわち、私」といって一人が誠の心で教祖の「ひながた」を辿らせていただくことが、真の平和世界へいたる道であることを教えてくださいます。

教祖は「月日のやしろ」として、口に筆に親神様の教えを説き記され、そして「ひながたの親」として陽気ぐらしの「ひながた」を示し、みずから先頭きつてお通りくださいます。

その教祖「ひながた」は、「稿本天理教祖伝」に明らかにされています。もう少し具体的に、ということになりますと、教祖に導かれた道の先人の姿をとおして、学ばせていただくことができます。

そこで、ここでは特に、この道の信心に生きた女性を取りあげ、教祖「ひながた」との接点を求めたいとおもいます。

心がうれしくなつて 晴ればれする世界へ

増井りん(上)



明治16年、りん14歳のとき撮られたもの。教祖のお守りとして日々おそばに仕え、別火別鍋のお食事をはじめ、身の回りの一切のお世話をされた。(大縣大教会所蔵)

この時代において、当時の社会的な制約のもとに生きるという側面が、特に女性には顕著です。

その中であつて、教祖は、当時、大切とされた家柄や財産という形あるものによつてではなく、一名一人の心次第、その心通りにご守護をいただく道をお示しくださいました。

先人は、手足を縛る縄が解かれるような、霧が晴れて青空がひろがるような感激をもつて、その教えを受けとめたのではないかとおもうのです。

「真つ暗闇の世界」から

増井りん(1843~1939年)という先人は、明治7(1874)年にこの道に手引されました。大阪府中河内郡大県(現、大阪府柏原市大県)に生まれ、家柄も財産もある豊かな家の

文伊橋幸江 天理教校本科研究課程講師
いはし・ゆきえ。平成2年、天理教校本科卒業。同年から天理教校本科研究室に勤務。天理大学非常勤講師。

一人娘として育ちます。19歳で婚養子を迎へ、3人の子供に恵まれ、何と自由なく暮らしていましたが、その暮らしは30歳のとき、両親、ついで頼りの綱の夫を亡くして一変します。

さらに2年後、その両目が一夜の間につぶれて見えなくなります。医薬の限りをつくして回復を願いましたが効果はなく、小さな子供を抱えて絶望の底にあつたとき、人づての話をとおして教祖の教えに導かれます。

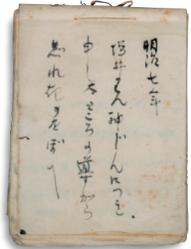
代理の人が、おちばで書き記してもらつた書物に、身の内は神の「かしものかりもの」「いんねんの理」「八つほこり」などの教理が詳しく書かれていました。さらに、「三日三夜のお願いをするときは、まずこの「教の理」を心に治めてからするように」と書き添えがありました。

りんは、その教の理を「なるほど」と心に聞き分けられます。「こうして、教の理を聞かせて頂いた上からは、自分の身上はどうなつても結構でございます」

三日のお願いが明ける夜明けとともに、その目は全快するのです。「真つ暗闇の世界」から一転して、「有りがたい、心が嬉しうなつて晴ればれする」世界へ出たといわれています。



「針の芯」のお許しを頂いたりんが記した、教祖のおし物の寸法書。赤衣の縫い初めに、りんの一針が入らなければ、誰も縫うことを許されなかったと伝えられる。(大縣大教会所蔵)



明治7年の入信以来、お屋敷につとめた日々のご家族、お屋敷へ出入りした人々の様子がしのばれる。(大縣大教会所蔵)



おちば帰りを重ねながら無我夢中で河内布教に徹した数年ののち、ご婦人がたと交代でおやしきの御用をつとめます。そして明治12年からは、教祖のお守り役をおつとめになるのです。

おやしきでの勤めは、炊事まわりや風呂焚きなどの下働きでしたが、おやしきへ足が向かうと「心が晴ればれした」と語っています。

ある寒の日に、泉水の掃除をみずから買つて出ます。教祖のお孫さんにあたる梶本ひさ(のちの山澤ひさ)と一緒に、素足になって冷たい水の中に入り掃除をされます。二人の足は真っ赤になりました。美しくなった泉水をごらんになった秀司先生は、たいへん喜ばれ、「まあ、冷たいやろう」とおっしゃいました。りんは、「これで、一度に温うなりました」と、そのときの喜びを記しています。

また、ある日のこと。便所の中になりたいへん汚いことをしてあつたのを、頼まれないのに、誰にも気づかれないうちに、きれいに掃除をされました。

「まああんな、汚いこと、誰したやらわからんに、掃除、人のしらん間にしておくとは、誠の人やな」

「結構の理を聞き分け、また結構のおたすけをいただいた、その心ががいます」
このような、おやしきの人々の言葉から、教の理を聞き分けて心に治めて通られた信心を伺うことができます。
そのうえ、川で大釜を洗つたり、薪でかまどや風呂を焚くときであっても、年中きちんと帯をしめてつとめられたということです。
何をしても神様の御用をさせていたたいという、気持ちのあらわれであつたとおもうのです。

(つづく)

酒害相談 受付変更のお知らせ

「天理教酒害相談室」(布教部社会福祉課内)では、4月1日から、酒害相談の受付を変更いたしました。

- 電話受付 0743-62-8230
受付時間 平日9:30~12:00
※ただし、年末年始(12/28~1/4)、お節会期間、子どもおちばがえり期間、本部祭典日およびその前後日は、受付を休止いたします。
- メールフォーム
受付時間 24時間
QRコードまたは布教部ホームページへ
<https://fukyo.tenrikyo.or.jp/top/>

おたすけのための ひのきしんスクール

受講者募集

図書修理

期日 4月27日(火)
会場 おやさことやかた東左第4棟4階
定員 20名(ようほく)
締切 4月15日(木)
※詳細はホームページをご覧ください

申し込み・問い合わせ
ひのきしんスクール事務局(布教部社会福祉課内)
〒632-8501 天理市三島町1-1
☎0743-63-2314 ☎0743-63-7266
Eメール=h-sc@tenrikyo.or.jp
ホームページ=https://fukyo.tenrikyo.or.jp/h-sc/
※電話での申し込みはできません

ホームページ
最新情報は天理教HP
「お道のニュース」から

教内の行事案内やニュースをネット上で一元化。「お知らせ」「親里ニュース」「各地ニュース」の三つのカテゴリーから、最新の情報をご覧ください。速報性、検索性が高く、気になる記事が見つかります。

天理教ホームページ
「お道のニュース」

立教184年4月29日(祝)

全教一斉ひのきしんデー

各地の会場一覧は、昨年に引き続き、インターネット上の「教区・支部情報ねっと」の各教区・支部のページに掲載します。
なお、お住まいの地域に会場が設定されていない教友は、それぞれで教会や布教所、自宅において、感染防止の対策や配慮をしたうえで、ひのきしんを行います。
布教部

※掲載内容は、当日までに一部変更・追加される場合があります。その場合は「布教部ホームページ」に掲載します
※問い合わせは各教区、または「ひのきしんデー事務局」(☎0743-63-2245)まで

教区・支部情報ねっと

講演ダイジェスト

天理大おやさと研究所特別講座 「教学と現代」から

人類みな兄弟姉妹 の教えを心に

永尾教昭・おやさと研究所長

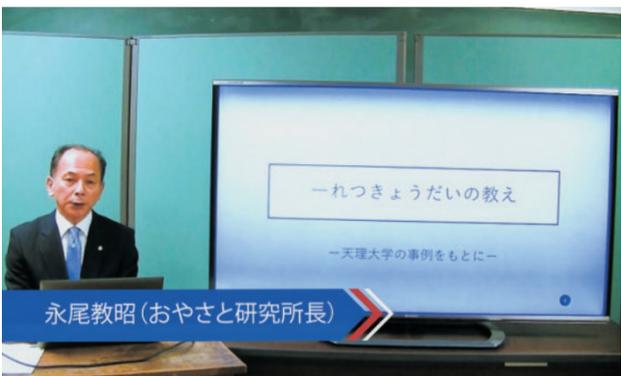
天理大学おやさと研究所（永尾教昭所長）は3月28日、特別講座「教学と現代」をオンライン開催した。今回のテーマは「新型コロナウイルス時代の天理教の教えと実践」。永尾所長の基調講演のほか、佐藤孝則研究員が生物科学的な視座から、澤井義次研究員が天理教学の立場から発題した。ここでは、「一れつきょうだいの教え——天理大学の事例をもとに」と題する永尾所長の基調講演をダイジェストで紹介する。なお、文末のQRコードから講座全体を視聴できる。

昨夏、天理大ラグビー部で新型コロナウイルスの集団感染が発生した。検査、公表を進める中で一般メディアのニュースにも取り上げられ、一度目の記者会見を行った。その後、天理大生がアルバイトを断られたり、教育実習の受け入れを拒否されたりするなどの「差別」が発生したこともあり、「学生を守る」と、あらためて記者会見を開いた。

その後もクレームは続いたが、市民や卒業生からの激励の電話が増え、教育実習生が全員受け入れられるようになるなど、「潮目」が変わっていった。

そして、集団感染は収束。部員たちには、「不祥事ではないので卑屈になるな。しかし、心配をかけたことは事実だから、謙虚にはなろう」と言葉をかけた。

このたびの問題の背景には、コ



今年度の「教学と現代」は、オンラインで開催された（3月28日）

を第一に考えるだろうし、そうすべきだと思う。「万が一」の恐怖があるからだ。

口ナという未知なるものへの恐怖や心配があったのだと思う。心配するのは当然だが、その気持ちが大きくなると、当事者への差別につながるのではないだろうか。

その一方で、「私が受け入れ先の人ならば」と考えたとき、店の客や自分の家族、学校であれば、生徒やその保護者のことを

「親神様」といった存在に対して畏敬の念を持つことだ。

差別や偏見はいけないことだと心の中で分かっているけれども、「仕方がない」と心を整理してしまっている人は多い。しかし、親神様という人知を超えたものの存在を意識することで、「仕方がない」と整理された心を再度開き、その心を無くそうと努められるようになる。それが差別を無くしていく大きな一歩になるだろう。

「偉大な存在」を信じることもなく、人間至上主義を振りかざす限り、差別は無くならないだろう。

一方、お道には、人類はみな兄弟姉妹であるという教えがある。私たちがお互いを本当に「兄弟姉妹」だと思えたとき、それぞれに違いがあっても、拒絶ではなく違いを受け入れることができる世界になっていくはずである。

だから私は、相手先を一方的に断罪するのではなく、事実を丁寧に説明し、一緒になってこの問題を考えていきたいと思い、記者会見を開いた。

「仕方がない」を改める

人は、差別や偏見は悪いことだと理解はしているが、実際にはなかなか無くならない。

私は、「教育の力」と「信仰の力」の二つが、それを解決する道筋へと導く大事なものだと感じている。

「信仰の力」とは、人間の知恵・力を超えたものの、私たちがいう「親神様」といった存在に対して畏敬の念を持つことだ。

差別や偏見はいけないことだと心の中で分かっているけれども、「仕方がない」と心を整理してしまっている人は多い。しかし、親神様という人知を超えたものの存在を意識することで、「仕方がない」と整理された心を再度開き、その心を無くそうと努められるようになる。それが差別を無くしていく大きな一歩になるだろう。

「偉大な存在」を信じることもなく、人間至上主義を振りかざす限り、差別は無くならないだろう。

一方、お道には、人類はみな兄弟姉妹であるという教えがある。私たちがお互いを本当に「兄弟姉妹」だと思えたとき、それぞれに違いがあっても、拒絶ではなく違いを受け入れることができる世界になっていくはずである。



動画はこちらから（約1時間25分）

人と関わる知恵
カウ・メモリー・ブグ・エッセー
金山元春
天理大学教授
本部直属淀分教会淀高知布教所長

今回でこのエッセーは5年目に入ります。

これまで、さまざまな人と関わる知恵についてお伝えしてきましたが、自らが実践できていないことも多く、反省しています。

とりわけ家族に対しては、「きつこうしてくれるだろう」と勝手に期待したり、「みなまで言わなくても分かっている」と甘えが出たりして、相手を思いやる気持ちをおぼたがります。時には「どうして分かってくれないの!」とイライラしたり、「何を考えているのか分からない」と悩んだりすることもあります。

このようにイライラしたり、悩んだりするのは、「家族なのだから分かるはず」という前提に立っているからでしょう。まずは、その前提を変える必要があります。家族であっても、一緒にいるだけで何もかも分かる



絵・うえ かな

家族円満の秘訣

合えるわけではありません。「おふでさき」に「をやこでもふうく」のなかもきよたいも「みなめへく」に心がうで（五号8）とあります。このことが心に治まり、「家族であつても、それぞれの心で思っていることは違うのだから、互いになかなか分かり合えないのは当然だ」という前提に立つと、むしろ心に余裕が生まれて、相手の気持ちを分かたつつもりになって決めつけたり、こちらの気持ちを分かたつてほしいと求めたりする前に、相手のことを思いやり、その声に耳を傾けることができるようになります。

また、家族だからといって常に一緒にいればよいというわけでもありません。一緒にいる時間が長ければ長いほど、それだけ関わる機会も多くなります。そんな中で、「もつこうしてほしい!」と相手に求める気持ちが膨らんできて、かえって傷つけ合うようなやりとりが増えてしまふことがあります。大切に思う相手であるからこそ、時には適度に距離を取ることも必要です。

家族には、それぞれの役割があります。互いの持ち場・立場を尊重し、相手の領分に關しては信頼して任せるという姿勢が求められます。それを自覚して自らの務めを果たすことが、家族としての「一手一つ」の姿であり、家族円満の秘訣といえるのではないのでしょうか。



2度目の世界王座防衛に成功した冴美さん(中央)と夫の健さん(右)と花形会長(3月18日、東京・後楽園ホールで)

話題を追って

奥さんは世界王者

埼玉の岡庭冴美さん



これから共に道を歩む冴美さんと健さん(3月21日、埼玉県三郷市の北葛分教会で)

教会長の奥さんはボクシングの世界王者。国際ボクシング連盟(IBF)女子世界アトム級チャンピオン花形冴美選手(本名=岡庭冴美さん・36歳は、先ごろタイトルマッチに臨み、2度目の王座防衛に成功。夫・健さん(41歳・北葛分教会長)との結婚を機に、教会生活に入った冴美さんは、この試合をもって現役を引退した。世界の頂点に立った冴美さんが描く次のビジョンとは――。

ボクシング王座を防衛し引退 修養科へ

「自分の力を出しきれなかった。ボクシングの世界に未練はない」。引退試合となるタイトルマッチを終えた冴美さんの表情は、晴れやかだった。

運動神経が良く、学生時代にサッカーやハンドボールなど団体競技に打ち込む一方で、人間関係の難しさを味わった。そこで「一人でできるスポーツを」と考える中で、ボクシングと出会った。

21歳のとき、自宅近くの花形ジム(花形進会長)に入門。大げや4度の世界戦敗北を経験しながらも、プロ10年目の2018年、IBF女子世界アトム級王座を獲得した。「頑張りきることで『頑張りきる』ができた。絶対に逃げな

い、と覚悟を決めて取り組んだ結果、夢を叶えることができた

「自分を大切に」恩返し的人生を

冴美さんがお道の教えを知ったのは、世界の頂点に立った翌年の5月。知人の勧めで日本ボクシングコミッション(JBC)審判員の健さんと出会い、交際を始めたことがきっかけだった。

6カ月間の交際を経て19年11月に結婚。教会生活に早く馴染めるようにと、移動中などの空き時間を利用して「みかぐらうた」を覚えるとともに、月次祭の日には、コロナ禍で直会ができない代わりに、信者さんが持ち帰る弁当を自ら手作りした。

健さんは「妻の人柄が影響したのか、教会の雰囲気も明るくなった」という。一方の冴美さんも「教えを実践する夫の姿を見ることが、自分自身を振り返るきっかけになっている。私も夫のような通り方ができるようにしたい」と語る。3月18日に臨んだIBF女子世界アトム級タイトルマッチは、10ラウンドを戦い抜

いた末の「引き分け」。世界王者のまま有終の美を飾り、ボクシング生活を終えた。

「一番近くで応援してきた健さんは「審判員を務める私でも、極限まで自分の身体と向き合っただけで、お道の教えを体で存分に生かす競技なんだと教えられた気がする。妻はまだ信仰者としての一歩を踏み出したばかり。少しずつでも、共に教えを実践できるようにしたい」と話す。

5月から修養科を志願予定の冴美さん。「ボクシングは、自分を追い込むことを求められる競技だが、その一方で、自分を大切にできないと、けがをしてしまい、決して強くなれない。自分の身体を大切に使用していただくという部分では、お道の教えにも通じるものがあると感じている。これからは夫を支えながら、お世話になった方へ恩返しができるような人生を歩んでいきたい」と、第二の人生への抱負を語った。

訃報

細木美地生さん(89歳・敷島大・六踏分教会長) 3月2日出直された。北海道教区。
田崎義人さん(95歳・防府大・菅原分教会前会長) 3月5日出直された。山口教区。
長瀬れい子さん(90歳・南阿大・備北分教会長夫人) 3月5日出直された。広島教区。
加藤和子さん(94歳・本愛大

・本高見分教会前会長夫人) 3月8日出直された。大教会婦人を務めた。愛知教区。
鈴木道夫さん(94歳・東愛大・愛盛分教会長) 3月9日出直された。岡崎支部役員などを務めた。愛知教区。
高場正幸さん(71歳・岡大・東志免分教会前会長) 3月9日出直された。旧柏屋支部長を務めた。福岡教区。
中嶋フサさん(90歳・高安大・道治分教会長) 3月11日出直された。東京教区。
山口 忠さん(85歳・東本大・本北園分教会長夫人) 3月11日出直された。千葉教区。
渡邊桂太郎さん(70歳・那美岐大・桂城分教会長) 3月14日出直された。大教会責任役員、教区長を務めた。秋田教区。
加藤為吉さん(93歳・北洋大・大代分教会長) 3月15日出直された。岩船支部長、保護司を務めた。旭日単光章を受章。新潟教区。

道友社の本 好評発売中!!

重版決定

道友社フォトブック

① 神殿、教祖殿、回廊など 神苑の折々の写真を収載。親里案内に、おちば帰りのお土産に。

おやさこと心の景

神殿・教祖殿・回廊・中庭

定価495円(本体450円) B5判中綴じ/32ページ オールカラー ※本書は、道友社各販売店 ウェブストアでお求めください

出直しの教え 死の救い

橋本武 Hashimoto Takeshi

人生最大の悲しみが喜びに変わった父と弟妹を病で亡くし、人生に絶望する青年を死への懐懐から救ったものは――

定価770円 [本体700円] 文庫判/152ページ

道友社文庫 DOYUSHA BUNKO

天理教道友社 お近くの書店か道友社へ直接お申し込みください。 注文受付 0743(63)4713 03(3917)6501 [東京支社] Webストア https://doyusha.net

Tenri Sports

[天理スポーツ]

春のセンバツ 24年ぶりベスト4

天理高校野球部は、3月19日に開幕した「選抜高校野球大会」に出場。投打の中心選手が活躍して強豪校を撃破し、24年ぶりにベスト4入りを果たした。ここでは、準々決勝までの勝ち上がりを中心に報じる。

（3月31日記）

天理高校野球部

2年ぶりとなる今年のセンバツ大会は、観客数を1万人に制限するなどの感染対策を講じたうえで開催。アルプス席でのプラスバンド演奏も行われず、事前に収録した音源を流し、声援も控えるよう促されている。

天理高は、20日に行われた初戦で宮崎商業高校と対戦。序盤から得点を重ねて7-1と快勝した。

試合後、中村良二監督(52歳)は、昨年10月に亡くなった橋本武徳前監督の墓前に赴き、センバツ大会での勝利を報告した。

25日に行われた2回戦では、昨秋の関東大会覇者で強力打線を擁する高崎健康福祉大学高崎高校（群馬）と対戦した。

天理高は初回からヒットを重ねて得点を挙げる一方、エースの達孝太投手（2年）が緩急をつけたピッチングで相手打線を抑えていく。

2点リードで迎えた七回、2

アウト一、二塁で、四番の瀬千皓選手（同）がセンターへ2点タイムリーツーベースヒットを放ち、4-0。達投手は2安打8奪三振で完封。投打の柱の活躍が光った。

打線つながり大量得点

29日に行われた準々決勝は、2回戦を13-5の大差で勝ち上がった強豪・仙台育英高校（宮城）と対戦。ベスト4進出が懸かる試合開始前、アルプス席の保護者や学校関係者らに向かって、選手たちが「よろしくお願ひします」とあいさつすると、温かい拍手が送られた。

後攻の天理高は初回に2点を先取するも、三回表にホームランなどで2点を返される。

同点で迎えた四回裏。2アウト満塁のチャンスを迎えると、アルプス席上段のスピーカーから、天理高吹奏楽部が事前に演



奏・収録した伝統のチャンステーマ曲『ワッショイ』が流れる。

打席に立つのは政所蒼太選手（同）。直球をレフト前へ運んで2点を勝ち越すと、続く内山陽斗主将（同）も2点タイムリーツーベースヒットを放つなど、天理打線が火を吹いた（写真）。

その後、八回に1点を返されたが、九回は堅守で相手の反撃を抑え、10-3でゲームセット。24年ぶりとなるセンバツ大会ベスト4進出を決めた。

この日、2点タイムリーヒットなど3安打の活躍を見せた瀬選手は「いつも達に助けられているので、今度は野手が達を助けようという思いで、全員がしっかりと打線をつなぐ意識で打てた」と話した。

◇

天理高は31日、準決勝で東海大学付属相模高校（神奈川）と対戦。0-2で惜しくも敗れた。

なお、センバツ大会に向けて練習に励む天理ナインの動画を、下記QRコードから見る事ができる。



選抜大会ベスト8 天理高ラグビー部

天理高校ラグビー部は、3月25日に開幕した「全国高校選抜ラグビー大会」に出場。準々決勝で優勝候補の桐蔭学園高校（神奈川）と対戦し、12-24で敗れてベスト8となった。

文芸連載小説

作/片山恭一

画/リン

ふたり 星の降る夜は

第20話 アフリカの悲しい物語

真つ白い砂がきらきら輝いている。フウちゃんはホテルでの仕事の行き帰りにここを見つけたらしい。

「こんな砂浜はアフリカでもアメリカでも見たことがないよ」

浜辺に来るといつもやる遊びをはじめた。カンが黄色のテニスボールを海に向かって投げる。わたしは弾丸のように飛び出し、水のなかを猛然と駆けてボールを取ってくる。体力維持のための軽い運動といったところだ。

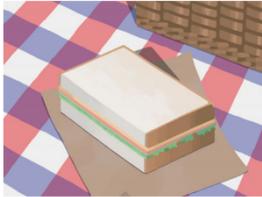
ツツは自分もやりたいと言った。腹立たしいことに、彼女の投げたボールはカンよりも遠くまで飛んでいった。暑さで頭がががんとする。全身の毛が水で濡れているのか汗で濡れているのかわからなくなった。

フウちゃんが「お昼だよ」と言ってくれなければ、波打ち際で息絶えていたかもしれない。

サユリさんが手製のサンドイッチを持たせてくれた。パンはハハが焼いたものだ。魔法瓶には熱いコーヒーが入っている。

カンがハムとチーズを挟んだサンドイッチを少し分けてくれた。ツツも同じようにした。今日一日、カンのやるとおりに自分もやってみるつもりらしい。

「わたしもピノミたいに真っ黒い髪だったらよかったな」。ツツが誰にもなく言った。「別にいまの髪がいやってわけじゃないのよ。でも、やっぱり黒のほうがいいな。とくにこの国ではね。目立つちゃうから、明るい茶色は」



「ふたり」のバックナンバーを道楽社HPで公開中。登場人物の相関図や作者のプロフィールも閲覧することができま。下記QRコードからアクセスしてください。



羨望のまなざしを受け止めかねて、わたしは立ち上がった。波は静かで水は宝石のように透き通っている。浅瀬でカニが海藻をついばんでいる。砂の表面には波の跡が残っていて、小さなヤドカリが歩いては立ち止まり、また歩きだすといったことを繰り返している。

天国のように平和だった。海も空も美しく、砂浜に群生した植物たちはみんな静かで、ヤシの木は明るい日差しのおかげでまどろんでいる。あまりにも申し分のない一日は、かえって現実味のないものに感じられる。この平穏な一日が、ずっと終わらなければいいと思った。

フウちゃんが修理したばかりの太鼓を叩いていた。ツツとカンは水に入って、丸いすべすべした小石や、砂で磨かれたガラス瓶のかけらなどを集めている。わたしはヤシの木陰に寝そべって太鼓の音色に耳を傾けた。太鼓は女の人が泣いているような悲しい音色をたてた。

帰りの車のなかで、フウちゃんはアフリカの音楽の話してくれた。アフリカに暮らす多くの人たちのあいだでは、数世代前まで文字で何かを書き記す習慣がなかった。それで土地の伝説や物語を残すときには歌で伝えた。だから音楽はとても大切にされた。話を聞きながらわたしは思った。さっきフウちゃんが叩いていた太鼓は、きつと悲しい物語を伝えるものだったのだろう。